

---

# **私は天使 仕事は悪魔を殺すこと**

憂 若春

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私は天使 仕事は悪魔を殺すこと

### 【NZコード】

N6455Z

### 【作者名】

憂 若春

### 【あらすじ】

『私は天使。名前はないが人間界に舞い降りる時は人間に変身している。

人間界に降りる理由はただ一つ、悪魔を殺すこと。』

そんな天使が悪魔の悪事を暴き悪魔の数を減らしていくなかで天使になりたい悪魔に出会う。

その悪魔を殺すか考えながら接しているうちに

悪魔が天使になれるんじゃないかと思い始め、手助けを始める。

悪魔は天使になれるのか。天使と悪魔と世界のストーリー。

## 下級悪魔

私は、天界の地球に召喚された悪魔を殺す機関『キルサデル』の者だ。

たつた今、任務の電話がかかり、天界署へ向かっている。

天界署とは地球で言う役所のような物である。

そして、『キルサデル』はこの天界署にある科の一つである。

ということでおれは公務員なのだ。

天界での公務員は天使の模範とされ、しかも『キルサデル』には天使3億人の中で名を上げた30人ほどしか願書を出す事ができず、その30人からさらに

実習を受けさせられて優秀と認められたものしか入ることは出来ない所なのだ。

キルサデルにつくと、所長がいた。

大きな、まるで社長の座るような椅子に座り、何かを考えているようだ。

私は話しかけず所長から話しかけてもらえるまで待とうと  
所長の部屋に入った所に立つたまま所長を見て、4～5分たつた。  
はつと、所長が顔を上げ私のいることに気づく。

「あれ、君いたのか。

ちゃんと言つてくれないと困るよ、今度からは気をつけてください  
いよ。」

やはり話しかけたほうが良かつたのか。  
少し肩を下げ返事をする。

しかし、所長を気遣つて話しかけなかつたのだが……。

無意味な気遣いは無用だという事か。

「所長、今回の任務は何でしょつか？」

所長は一冊の封筒を渡しに手渡した。

あけると、一枚の少し厚めの紙が入っていた。  
取り出すと紙の上に立体的に太い角に、ヤギの顔で  
でかい虫のような羽が生えており、四肢は人間のような悪魔が現れ  
た。

といつても、映像らしいから害はないのだが。

「よおよおよお、天使さんよおー・ぞやははははー！  
俺、悪魔のアガレスだ。超強いぜえ！」

今から地球で暴れてくるぜ。天使は俺を殺せるかな……？  
出来ないよなあ……？殺せるもんなら殺してみろー・ぞやはははは  
！」

そう言って悪魔はヤギを取り出すと頭を食いちぎって食べ始めた。  
気持ち悪い。そして、天使を侮辱している。

よりによつてこんな気持ち悪い下級悪魔を殺せと所長は言つのか。  
「所長、私はこの悪魔を殺すにふさわしい人は他にいると思われま  
すが。

今まで、私にはこんなヤツじゃなく、もう少しマシな中級から上  
級悪魔の

依頼しか来なかつたのに、こんな下級悪魔なんて……。なぜです

……？」「

そうだ、今まで力を認められたと思っていた。  
いつも中級から上級悪魔の依頼を受けて殺してきた。  
悪魔の貴族のヤツだつて殺したのに、こんな仕打ち……。

ギルサデルの天使にとつて上級悪魔を殺せる事が唯一の認められた天使としての証だ。

今まで、新人の頃から力を認められ上級悪魔だけの依頼しか来なかつた私には、こんな下級悪魔はギルサデルに入つてすぐの何も知らない新人が初めての任務で担当するようなヤツのはずなのに……バカにされたような気分になつた。

「そろはいつも、なんか悪魔最近活発だから人いなくて。カスだからすぐ殺せるでしょ？ね、頑張ろうよ。頑張つたら僕と……、ね？」

「良いことしよ？」

所長はニヤニヤしながら言った。

良い事つて何だ。所長はきっと平和ボケしているのだ。

魔界には一瞬で優秀な天使を殺せるような悪魔がうじゅうじゅういるというのに。

そいつらが攻めてくる可能性も考えられなくはないだろう。

こんな依頼受けたくもないが私に任せられたのはまぎれもない受け止めなくてはならない事実。

私は溜息をついた。外では雲がかげり始めていた。

「ところで所長、報酬は？」

そうだ、こんなカス悪魔の血で私の手が汚れるのだ。

報酬は今までの上級悪魔以上にがつぽり貰わなければならぬ。

「報酬？えつとー、わざわざ言わなかつたかな？僕と良いこ「遠慮しますっ！」

早くこの任務を終わらせてまた天界でゆつたり過ぐやう。

きっと、上級悪魔なんて1000年に1回出るか出ないかだらう。もつ、カス悪魔の依頼も来ないだらうしこれが終わったらまた100年は休めるな。

そう思ひうと、少し足取りが軽くなつた。

「では、依頼をお受けします。」

そう私が言ひと、所長は顔の筋肉を引き締めて

「了解。場所は地球、イタリアといつ国の西はずれにある古びた洋館。

期限はえつと一、まあ、5日くらいかなあ？健闘を祈るつー。」

途中の期限の所が少し気になつたが、構つていられない。

早速、自宅に帰つて悪魔殺しの道具等を準備しなければならないのだ。

すぐさま家に飛び帰ると、いつも使つてゐる黄色のバッグ。

これは万能品で何でも入るのだ。たとえバックより大きかつたとしても。

そして、そのバッグの中にはいつも使つてゐる、弓と剣が入つている。

この剣で何匹の悪魔を殺した事か、私は天界で子供たちの憧れの的だ。

弓もまあ役に立つてはいるが、いちいち弓を引いてる暇はないのが実際の所だ。

悪魔はすぐ襲つてくるのだから。

さて、準備は整った。

あとは、地上に降りて、悪魔を殺すだけだ。

殺す時の悪魔の悲鳴が何ともいえない嬉しさに変わる。

この世から悪の存在が一つ消えたのだから。

こんなこと言つてると私のほうが悪魔に見えるかもしないが、キルサデルの奴らだけがこうであつて、他の天使は下手すると悪魔も助けるくらい

優しい奴らばかりだ。私はいつからこんな風になつたのだろう。

今日はもう遅い。

一夜明けたら、人間界に降りることにした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6455z/>

---

私は天使 仕事は悪魔を殺すこと

2011年12月21日20時56分発行